

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区大森北 1-10-14 Luz 大森 5 階
園名	アスク大森保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

○外国

<テーマの設定理由>

○国旗を通して世界への興味・関心を広げていく

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるよ

11 月：アメリカと日本の比較（国旗・食文化・スポーツ）

12 月：様々な国旗の特徴を知る（色・形）

1 月：国旗作り（模倣・オリジナル国旗作り）

2 月：オリジナル国旗紹介（I like を使って）

国旗探し

3 月：1 番好きな国旗の発表（I like を使って）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○国旗カード・世界地図・国旗かるた・国旗の由来絵本・塗り絵

○クッキングで、スペインのおやつ「チェロス作り」

○色を英悟で表現するための様々な色の画用紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【3 歳児】

・日本とアメリカの食やスポーツ等、文化の違いを知り、他にはどんな国・国旗があるのかを絵本や国旗カードを活用しながら好きな国旗を見つける。その後、オリジナル国旗作りや国旗の特徴を知りクイズに発展していく

【4 歳児】

・ゲームを通して親しめるように国旗カードを準備し、友だちと保育者と楽しみながら国旗の種類を知っていく。

・国旗絵本の読み聞かせで、国旗の成り立ちや文化を知る機会となる。

・色を英語で表現するため、様々な色の画用紙を貼りだす。

・スペインのおやつ、チュロスをクッキングで作る。

【5 歳児】

・国旗について興味（国旗の色・食べ物・有名な場所・挨拶など）が持てるように、絵本やカードを準備する。

・好きな国旗を探したり、クイズにして国旗を知る機会とする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3 歳児】

・国旗をよく観察し「〇〇の理由だから、この国旗が好き」とグループで発表したり、国旗を覚えることに夢中になっていた。

・知らない国旗があると、国旗に詳しいお友だちに聞きに行く姿も見られ足り、絵本やカードと一緒に国旗を探しを見つけることを楽しんでいる。

【4 歳児】

・「こんな国あるんだ」「この国旗と国旗、色違いだ」などと国旗カードを通し、様々な国を知れることに喜ぶ姿が見られる。更に、興味が深まり、国旗の意味、食文化にも関心を持ち始め国旗絵本で国の特徴を知っていく。その中でも、スペインの国旗を好む子どもたちが多くいたことでクッキング保育でスペインのおやつ「チュロス」作りを体験し「こうやってつくられているんだ」「初めてだけどおいしい」と食文化に共感している。

【5 歳児】

・英語を使って伝えることに苦戦する姿が見られたが、友だちや保育者に聞きながら自分で発表している。知っている国名が出た時には、知っていることを伝え共有する姿が見られた。オリジナル国旗を発表した後には、英語を使って好きな色や形、国旗について話すことを楽しんでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3 歳児】

・子どもが「国旗」に興味を深く示し、分からないと積極的に調べようとする姿が見られた。国旗をよく観察して、塗り絵も楽しんでいた。子どもたちがすぐに調べられる環境づくりの大切さを実感した。

【4 歳児】

・子どもたちの知りたいという気持ちで、どんどん活動が展開し、想像を超える内容となった。子どもたちの疑問に答えて環境を整えていくことで、子どもたちの国旗に対する「わくわく」に終わらないと感じた。

【5 歳児】

・英語の単語が分からず、真似して発表する形にはなってしまったが、自分の知っている単語の時は積極的に発表することが出来ている。国旗を知ることから、挨拶や食事、国旗の色について興味を持ち、散歩時に見かけた国旗を友だちと確認し合う姿が見られた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区大森北 1-10-14 Luz 大森 5 階
園名	アスク大森保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽絵本

<テーマの設定理由>

毎月、図書館と連携していて絵本に触れる機会が多く、音楽活動が好きな子どもたちが多いためつなげていきたい

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

1 1 月：音楽を聴き、頭の中でイメージを膨らませ、絵で表現をする。

1 2 月：絵本の読み、身近なものを使って、絵本の世界の音をつける。

1 月、2 月：絵本に出てくる登場人物になりきり、身近なもの（玩具や廃材など）で音を探す。

3 月：楽器を使い、絵本の場面にあった音を鳴らし、音楽絵本を完成させる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙、クレヨン、紙、CD（クリスマスソング、はらぺこあおむし）

絵本（くれよんのくろくん、はらぺこあおむし、どんなかお、三匹のこぶた、ブレーメンの音楽隊）

カスタネット・ハンドウッドブロック

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【3歳児】

様々なものを使って音で表現する。童話「三匹のこぶた」の絵本に出てくる「わらの家」「レンガの家」「木の家」を作るときに出る音をイメージし、楽器や廃材で音を探す。また、活動していく中で、楽器に興味を持っていたため、楽器の音を日常で使っている物で表現できないかを探した。

【4歳児】

CDから流れる曲を絵で表現する活動を繰り返し、イメージづくりにつなげる。はらぺこあおむしの音楽絵本のよみかかせから音の明暗やあおむしの気持ちを考える活動を行う。音探しでは、室内玩具、廃材、楽器を十分に用紙、いつでも手に取り、音の表現を楽しめるような活動を定期的に行った。

【5歳児】

身の回りにあるものや廃材はどんな音がするのか音の表現をたのしむ。また、自分のイメージする音が見つけられるように様々な楽器などを用紙し、音の組み合わせも楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3歳児】

音を探す時は、「なんでもいいの?」「これを使ってもいいの?」と普段は楽器として扱わない物にも興味を広げていたため、子どもの発想を受け止め、様々なものを使って、試して、音が見つけられるようにした。自分で音を見つけると、子ども同士でも音を聴きあい、お互いに認め合う姿も見られた。また、楽器を使う場面では、楽器をたたく強さや鳴らし方によって、音が変わることに気付いていた。

【4歳児】

ブレーメンの絵本に出てくる動物になりきり、お手玉を床に打ち付けると「猫の足音みたい」と気づいたり、玩具、廃材、楽器を通し、様々な音に触れ、初めての音の体験を多く持てた。特に楽器に対してわくわくする姿が見られ、繰り返し活動に入れて、ピアノの伴奏に合わせて演奏を楽しんでいる。友達同士で「揃ったね」「きれいな音だね」と感じたことを言葉にして伝え合う姿も見られた。

【5歳児】

各グループで話し合い、音を鳴らしながら絵本のイメージに合っているのかを共有する姿が見られた。「動物の大きさに合わせて楽器の音の大きさも変わると思う」等、自分の考えを伝えながら音を探していた。グルー@うで話し合い、楽器や廃材をそろえたり、様々な物を使って音を奏でる姿が見られ、集中して取り組んでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3歳児】

“音”は、既存する楽器を使って表現するだけでなく、子どもたちにとってもっと身近な物であると感じた。また、「自分で見つける」という活動を通し、子どもたちは積極的に身近な音を探し、音の面白さを感じているようだった。子どもの発想や気持ちを受け止め、活動内容も柔軟にしていけることで、さらに活動も充実していきと感じた。

【4歳児】

活動中はもちろんだが、ふとした瞬間にも「〇〇みたい」と音を感じ、何かに戸多恵、表現力が育っているように感じた。子どもたちが、お互いに表現の良さに気づき、認め合ったり、模倣したりできるよう必要に応じて援助していきたいと感じた。

【5歳児】

音探しでは、身近にある物や楽器をつかって表現することが多く、日常的に「これはなんの音？」と疑問に持つ姿が見られた。活動を継続していく中で、音を鳴らすことに夢中になり何についての音を探しているのか分からなくなったので、写真などを準備することで、さらにイメージを膨らませることができるのではないかと感じた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区大森北 1-10-14 Luz 大森 5 階
園名	アスク大森保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

○からだのづくり

<テーマの設定理由>

○人によってからだの大きさや得意なスポーツや走り方が違うので、自分たちが得意なことをのばしたり、不得意なことを克服したりすることで、自分のできることに気付き、挑戦する気持ちを養う

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる
11 月～：体力測定（1 回目）→ 得意・苦手を知り、特にになるためにはどうしたら良いか話し合う。サーキットの中で、どの動きが記録が伸びるかを試し考える
1 月：グループで話し合った内容を実践し、繰り返し取り組む
「走る」・「バランス」に着目し、グループで話し合う
2 月：「力を伸ばす（押す・ジャンプ）」遊びを考え、実践する
3 月：体力測定（2 回目）記録の「伸び」を確認をする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○記録用紙・タイマー・マット・床印・マット・ポッピング・長縄・短縄・鉄棒・つなひきロープ
○いつでも測定できる環境作り（タイマー・床印）

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

【3 歳児】

- ・体力測定を行い、どのような活動や遊びを取り入れると記録が伸びるかをグループに分かれて話し合い、その後みんなの前で発表・実践する。

【4 歳児】

- ・いつでも取り組めるよう、室内にジャンプコーナー、バランスコーナー、あざらしコーナーなど作る。
- ・「ジャンプ力」に特化するため、ホッピングリレーや短縄、大縄に取り組む。
- ・「バランス力」に特化するため、タイマーや頭の上に乗せる紙コップを準備し取り組む。
- ・「押す力」に特化するため、友だちの乗るマットを押す活動など取り入れる。

【5 歳児】

- ・各グループに分かれ、どうしたらもっと出来るようになるかを考え、実践する。
- ・発表する場を設け、他のグループの意見を取り入れながら自分たちに出来ることを見つける。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

【3 歳児】

- ・思ったこと・感じたことを積極的に発表する姿がある。
- ・発表時、言語化することに苦戦する姿が見られたものの、実際に動きを見せることで説明する姿があり、また他児の意見や動きを実際に行うことで、自分なりの意見を伝えようとしていた。

【4 歳児】

- ・子どもたちが制限なく自分のやりたい動きが出来るよう環境を整えると、好きな時間に少人数で取り組む姿が見られる。友だちの得意を真似したり、「見ててね」と保育者や友だちに見守られることで安心して挑戦し、認められることで自信に繋がっている。
- ・自分の出来るを伸ばそうと日々活動し、記録を伸ばしている。取り組む中で「頑張ってる」と友だちを応援する気持ちや「すごいね」と友だちを認める気持ちを表す子どもの姿が増える。

【5 歳児】

- ・2 人 1 組で行い、協力して取り組む姿が多く見られた。一緒に行うことで競い合いながら挑戦することを楽しんでいた。「出来ることを探そう」では、自分は何が出来るかを確認し、自分が出来そうなことに取り組んでいた。1 人で出来ない時には、友だちに声をかけたり、手伝ってもらいながら取り組む姿が見られた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3 歳児】

・子どもの意見に耳を傾け、予想もしない返答がきても受け入れながら一緒に試すことで新たな発見があり、より一層子どもたちの可能性があることに気付くことができた。

【4 歳児】

・子どもたちの気づきに寄り添った環境を整え続け、活動の幅が広がるようにすることが大切だった。ビル園で園庭がないが、体を思い存分動かすことは可能で、体力向上に繋がったと感じ、引き続き取り組んでいく。

【5 歳児】

・各グループに分かれ、自分の伸ばしたいことを自分で決めることで積極的に意見や考えを伝える姿が見られた。普段から、いつでも取り組める環境を整えていることから、誰にでも挑戦出来ることに気づき行動に見られた。子どもたち中で負けたくない気持ちから、どうしたらもっと出来るかを考える姿が見られるようになった。

